

議員全員協議会会議録

令和 2 年 1 2 月 2 4 日

宮 古 市 議 会

令和2年12月宮古市議会 議員全員協議会会議録目次

(12月24日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
閉 会	22

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時

令和2年12月24日（木曜日） 午前10時30分

場 所

市議会 議場

○

事 件

〔説明事項〕

（１）遊覧船事業実施に係る基本方針について

出席議員（22名）

1番	白	石	雅	一	君	2番	木	村		誠	君
3番	西	村	昭	二	君	4番	畠	山		茂	君
5番	小	島	直	也	君	6番	鳥	居		晋	君
7番	熊	坂	伸	子	君	8番	佐々木	清		明	君
9番	橋	本	久	夫	君	10番	伊	藤		清	君
11番	佐々木	重	勝		君	12番	高	橋	秀	正	君
13番	坂	本	悦	夫	君	14番	竹	花	邦	彦	君
15番	長	門	孝	則	君	16番	落	合	久	三	君
17番	松	本	尚	美	君	18番	加	藤	俊	郎	君
19番	藤	原	光	昭	君	20番	田	中		尚	君
21番	工	藤	小	百合	君	22番	古	舘	章	秀	君

欠席議員（0名）

なし

説明のための出席者

〔説明事項〕（1）

産業振興部長	伊藤重行君	観光課長	前田正浩君
もてなし観光係	松浦宏隆君	観光事務専門員	佐々木均君

議会事務局出席者

事務局長	下島野悟	次	長	松橋かおる
主査	前川克寿			

午前10時30分 開会

○議長（古舘章秀君） おはようございます。ただいまから議員全員協議会を開会します。ただいままでの出席は22名でございます。会議は成立しております。本日の案件は説明事項1件ですが、所管の常任委員会の委員長の意向を伺った結果、全議員で説明を受けることが適切と判断し、全員協議会を開催することといたしました。皆様ご了承の上、スムーズな議事進行にご協力をよろしくお願いいたします。それでは説明事項の1、遊覧船事業実施に係る基本方針について説明願います。伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 改めましておはようございます。それでは遊覧船事業実施に係る基本方針について説明をいたします。資料の1ページをお開き願います。遊覧船事業計画基本方針でございます。市が令和3年度に遊覧船を建造をする。令和4年度から公設民営として、遊覧船事業を実施し、宮古市の観光の振興と発展を図っていくことを基本方針といたします。これまでの経緯でございますが、7月22日に岩手県北自動車株式会社が遊覧船事業から撤退を表明して以降、この資料に書いてある記載のとおり、関係者、関係団体、市民等との意見交換、協議等をしてまいりました。その中で意見の多くは、遊覧船は宮古になくってはならない観光資源である。新たな形態も検討しながら継続してほしい、というものでございまして、後続事業の再開への期待を強く感じるものでありました。遊覧船事業を継続する必要があると判断したところでございます。今後は、令和4年のゴールデンウィークに就航できるよう事業を進めてまいりたいというふうに考えております。なお、事業計画の詳細につきましては、前田観光課長より説明をさせます。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） それでは、私のほうからは2番の新造船の概要について以降説明させていただきます。まず新造船の概要についてでございます。規模については後で説明いたしますけれども、ランニングコスト、定員、人員確保の視点から19トンとして考えてございます。船型については双胴船ということで、6ページを見ていただきたいと思います。6ページ、あくまでもイメージの写真となります。上が19トン双胴船でございます。松島の観光船でございます。下が19トン単胴船でございます。田野畑村の北山崎断崖クルーズ観光船となります。この上のイメージになります。1ページに戻っていただきたいと思います。次に定員80名を想定してございます。材質アルミ船、運航区分平水区域。平水区域ということでこれは現在の浄土ヶ浜遊覧船の周遊コースがこの運航区分になってございます。この平水区域でございますが、年間を通して、比較的穏やかで直接外洋に面していない波や風の影響は少ない水域ということで、宮古湾では閉伊崎と姉ヶ崎を結ぶ内側になります。金額でございますけれども、税込みで2億2,000万円。この19トンの操縦資格は小型船舶操縦免許2級となります。この資格者が1名いれば運航することができるということになります。また安全講習を毎年受けることが必要になってございます。なお、19トン以下であれば機関士の資格は必要ないということでございます。いずれ新しい船については、環境に優しい船、感染症に強い船、バリアフリー、そして再生可能エネルギーの活用の可能性も検討していきたいというふうに考えてございます。2ページをお願いいたします。2ページランニングコストについてでございます。まず収入でございます。市で想定をしてる19トン、中型の60トン級、150名定員。大型の100トン級、400名定員を比較してございます。ちなみに現在の浄土ヶ浜遊覧船は109トンになります。過去3年の浄土ヶ浜遊覧船の平均乗船者数は4万7,000人になります。19トンになれば、現在の船と比較して波浪、暴風、やませによって欠航率が上がります。ちなみに欠航率、浄土ヶ浜109トンについては8.4%。北山崎19トンは19.5%ということで欠航率が11ポイントあがります。これを考慮して、年間乗船者数を3万9,900人と設定してございます。19トンを基本に比較しておりますので、実際は60トン、100トンはもっと収入

が上がることになります。1人当たり平均乗船料単価1,100円、販売売上げ等は、ウミネコパン、自動販売機収入ということで、これについては現在の遊覧船の実績の数値になります。収入4,490万円になります。次に支出の部です。人件費19トンについては5人を想定してございます。60トン以上は10名でございます。下の米印でございますけども、この5人、必要人員は19トンは資格者3人ということで、小型2級船舶免許状の取得者3名、交代要員も含んで想定をしてございます。その他事務員2人ということで、これについては運航管理者、ガイド、売店事務員を想定してございます。3人の基本給が船員特定最低賃金。そして事務員2人。賞与については6月、12月ボーナスを各1ヶ月みております。人件費に2,320万円ということになります。次に燃料費。これについてはエンジンの馬力から算出をしてございます。次に船舶損害保険金、船主賠償責任保険金、一つ飛びまして事務所費、広告宣伝費、消耗品費、旅行会社手数料。これについては現在の浄土ヶ浜遊覧船の実績からの数値になります。戻りまして、先ほどの整備費用引当金でございます。350万円ということで、毎年の船舶維持費、定期ドック費用になります。また将来的にかかる維持管理費について毎年の積立て留保しておくという意味合いのものになります。この350万円の根拠でございますけども、3ページをお願いいたします。10年間にわたる船体整備に係る費用ということで、これについても比較してございます。船舶はシーズン前にドックに陸揚げをして毎年点検整備が必要になります。19トンについては毎年シーズン前に船底清掃、塗装、主機関整備などを行い1週間程度を要します。これが毎年の195万、約200万となります。また、19トンまでは8,000時間ごとの法定検査がございまして。資料では4年目の695万。8年目の1,130万。これがその時間ごとの法定検査を想定してございます。20トン以上については3年ごとの法定の中間検査、5年ごとの定期検査が必要で、2週間から3週間の時間を要します。60トン級で5年目が1,350万。10年目で1,350万という記載がそのとおりでございます。109トンについては、現在の浄土ヶ浜遊覧船の実績になってございます。19トンの10年間のトータルが3,435万。この平均の350万が先ほどの根拠になります。60トン級については年平均600万円。109トンこれ実績でございますけども、平均1,520万の維持費がかかっているということでございます。2ページに戻っていただきたいと思います。収入支出計でございまして。19トンについては、170万の黒字ということ想定してございます。60トンについてはマイナス2,535万。100トン級についてはマイナスの3,655万。ということで、いずれランニングコストについては20トンを境に全く違うことになってございます。4ページをお願いいたします。船型についてということで単胴線と双胴船の比較をしてございます。単胴線のメリットでございまして、船価が双胴船より安価、安いということです。ピッチングが少ない。ピッチングというのが船首、船尾、船の前と後ろが、上下シーソーのように揺れることをピッチングといいます。スラミング衝撃が少ない。これも船が前から波を受けたときに船首の部分が海面に叩きつけられる現象といいますか、それをスラミングといいます。単胴船のデメリットが傾き、横揺れが大きい。デッキスペースが狭い。復原性が小さいということが挙げられます。双胴船のメリットでございまして、復原性が大きい。走行中の揺れが小さい。デッキスペースが広い。乗船定員が単胴船より多い。バリアフリースペースの十分な確保ができる。デメリットについては、単価が単胴船より高い。ピッチングが大きい。連結部にスラミングを生じる。ということでございますけども、市としては双胴船でいきたいというふうに考えてございます。次に(3)船体の材質についてでございます。船体の材質は大きく分けて、木造、アルミ、FRPがございまして、現在はアルミ船が主流となっております。比較でございまして、アルミ船については、アルミ合金は軽量であり、加工性、耐久性に優れており、船体強度、耐火性がある。また、廃船時には再利用が容易である。官庁向け船艇もアルミ船に順次切替えが進められているということでございます。FRP製については、アルミ船に比べて安価であり、修繕、

補修費用が抑えられるが、廃船処理が難しく、環境問題が指摘されてございます。船体の材質については、アルミ船で考えていきたいというふうに思っております。次に3番運営主体についてでございます。公設民営という考えでございますので、遊覧船の運営主体は民間を視野に公募を行うということでございます。令和3年6月から運営主体の公募を行い、8月までに決定し、事業内容について調整を行っていくということで、運航に向けての準備をしていくということになります。4番遊覧船建造に係る財源についてでございます。遊覧船建造の費用については、各種補助金、助成金、寄附金等を財源とすることを念頭に入れ、各種申請等を行っていききたいというふうに考えてございます。5ページをお願いいたします。財源についてはまだ確定したものはございませんが、まずは、地方創生推進交付金にチャレンジをしていききたいというふうに考えてございます。補助率2分の1、その裏を起債で見ることを基本として進めていききたいというふうに思います。右側に過疎債とございますけれども、過疎債としては、今年度で終了ということを知っております。これにかわる起債を考えていききたいというふうに思います。海上交通バリアフリー施設整備助成ということで日本財団の助成金がございます。エレベーター、スロープ等のバリアフリー部分のみの対象ということで、上限2,000万円になります。これについても申請をしていききたいというふうに思っております。クラウドファンディング型ふるさと納税、企業版ふるさと納税、これについては建造だけでなく、将来的な維持管理費につながるように考えていききたいというふうに思っております。またファンディングした宮古市民には何らかの特典も考えていききたいというふうに思います。いずれ財源についてはまだ確定したものはございませんけれども、財源の確保については努めていききたいというふうに考えてございます。次に5番遊覧船の建造発注方法についてでございます。発注方法については、企画、設計、施行を一括発注方式で行うプロポーザル方式を採用したいというふうに考えてございます。理由でございますけれども、造船は特殊な建造物であり、船舶の建造については、基本的な仕様やスペック、意匠を設定した上で、これらを連結させた規格、設計、施行を一体的に実施する必要があることからプロポーザル方式を採用したいというふうに考えてございます。また本方式を採用することによって、建造の工期及び事業費の圧縮も見込まれるということになります。岩手県内でこの19トンのアルミ船を建造できる業者については3者ございます。釜石2者、山田町に1者ということになります。6ページをお願いいたします。今後のスケジュールについてでございます。令和3年4月にプロポーザル方式により業者の決定をしたいというふうに考えてございます。令和3年5月船舶建造請負契約の締結ということで工期を12か月みております。令和3年6月、運営主体の公募、8月に運営主体の決定をし、半年間で出港に向けての準備をしてもらうということになります。令和4年4月に遊覧船の完成引渡し、5月に遊覧船事業の開始、ゴールデンウィーク期間中の就航記念式典を予定してございます。いずれ私が言うのもなんですけれども、市が船を持つというのはそれなりの確保が必要だというふうに思っております。最善の方法で事業が進められるようにご審議をよろしくお願いいたします。以上です。

○議長（古舘章秀君） はい、説明が終わりました。この件について何か質問があれば挙手願います。長門孝則君。

○議員（長門孝則君） この基本方針については私は基本的にこれでいいのかなとそういうふうに思っております。それで質問ですけども、この1ページの新造船の概要について19トンで定員が80名ですけども、資料で松島の島めぐりの遊覧船は同じ19トンで90名の定員になってますがね。その差はどうなのかなとちょっとお聞きします。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。双胴船に至った経緯ということでまず先ほども説明しましたけども、デッキスペースが単胴船より広いということで、定員を増やせることが1番の理由になります。観光バス2台分を想定してございます。ちなみに田野畑の遊覧船、2回の定員が10名になります。浄土ヶ浜の遊覧船はウミネコの餌づけで売ってる部分もございまして、まずここを増やしたいというの也有ります。あとは走行中の揺れが単胴制よりは安全性の確保ができるということもございまして。また昨年4月以降、遊覧船の導入建造におけるバリアフリー化の適合基準が義務化されております。障害者、高齢者、妊産婦に対してのエレベーターやエスカレーターの設置、動線の確保、トイレのスペースなどが双胴船が単胴船より広く、スペースがとれるということが大きな理由になってますし、先ほどの松島、そして田野畑の遊覧船については、この義務化される前の建造ですので、その辺で定員が当時は確保出来たということだというふうに聞いております。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○議員（長門孝則君） はい、わかりました。それからもう1点、5ページ、財源なんですけども、これからいろいろ財源については検討するということですが、提案なんですけども、ふるさと納税、ここにも書いてありますけども、去年は1億1,000万円ほどふるさと納税ご寄附をいただいております。もう半分以上が市長にお任せするというので、それがもう市長におまかせが6割ぐらいになってるんですよ。だから提案なんですけども、今度はふるさと納税に遊覧船の建造をテーマにしてお願いしたほうが寄附が多く集まるんでないかなと私はそういうふうに思ってますんで、ちょっとテーマに設けたほうが私は今いいと思ってるんですが、検討していただきたいなと、そういうふうに思っておりますが。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。ありがとうございます。私たちもそのように考えてございます。来年の4月を待たないで、年を超えましてそういう仕組みをつくっていききたいなというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○議員（長門孝則君） それから資料についての直接の質問ではないですけども、将来的に出崎から観光船の発着を計画されているんですが、どうですかね。いつ頃からあるいは具体的にそういう県との協議で案があるのかどうか。令和4年度からの開始に出崎からは発着するようになるのかどうか。その辺がもしお分かりでしたらお聞きしたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。出崎につきましては今現在埋立て工事中でございまして、令和3年度内の完成ということで、当然我々も出崎、そして浄土ヶ浜、現在の浄土ヶ浜の発着場というふうな航路といいいますか、そういう部分で令和4年の4月当初からそういうことで進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○議員（長門孝則君） 遊覧時間ですがね。今の遊覧船は大体1時間ぐらいがなあと思ってるんですが、やはり遊覧時間は観光客にとっては1時間が大体限度かなと。そういうふうに思ってますんで、今後のことですが、その時間帯はどういうふうに考えてますかね。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。これからの話になりますけども、まず全国的に遊覧船事業を廃止して復活してる場所もあります。ほとんどが船の規模をまず小さくしてございます。そしてこの遊覧船のキーワードといいますか、よく言われるのが誰でも、いつでも、近くに、時間を短く、そして手頃な価格で、というふうに言

われてますので、その辺も今後検討していきたいというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○議員（長門孝則君） 最後ですけども、参考までにお聞きしたいんですが、今の遊覧船の老朽化しているということですが、これはどういうふうになるんですかね。もう解体してしまうのか。あるいは、再利用どっかで検討されているのか、ちょっとその辺をお聞きします。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。解体を基本に考えているみたいです。使えるものは売ると。そして、宮古市水産科学館に寄付できるものは給付するというふうに聞いてございます。

○議長（古舘章秀君） 白石雅一君。

○議員（白石雅一君） はい。すいません質問させていただきます。1ページ目のところの基本方針の検討の経緯について、令和2年の9月に市民のワークショップを開いて意見を伺ってございましたけれども、今後のスケジュールのほうでは、この基本方針を市民の皆さんに説明する機会というのは設けないというところによろしいのでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 現在まず今日皆さんに説明ということですが、今後はまず観光審議会のほうに説明をいたしまして、当然市民の皆様の方にも説明する機会を設けたいというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 白石雅一君。

○議員（白石雅一君） はい、了解いたしました。ちょっと今後のスケジュールのところ6ページに書いてなかったものですから、お伺いいたしました。あとは先ほど長門議員の方からも質問がありましたけれども、航路であったりこういった形で運航していくのかっていうのが出たんですが、4ページのところの運航主体については、令和3年6月から公募を行うとあるんですけども、市のほうで先ほどおっしゃったような時間であったり、運航ルートであったり、そういったある程度の枠組みを決めた上でこの中でやってほしいという形で公募かけるんですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 指定管理を考えておりますので、当然市としてこの部分はやってほしいという中に、そういう具体的な時間であったり、航路であったりというのは示すというふうに解釈してほしいと思います。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） それでは幾つかお伺いをしたいと思います。まず最初に1ページの資料のこれまでの検討の経緯についてでありますけれども、10月の12日に専門会議、専門知識を有する方々との意見交換を行ってきたという経緯があるようであります。この専門会議の要は専門知識を有する方々というのはこういったメンバーなのか。同時に、この会議の中ではどういうご意見等々出されたのかちょっとそこら辺をご説明いただきたいというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） この専門会議というふうな名称にしましたが、まず船舶に詳しい方、そして遊覧事業といいますか、遊漁船事業をやった方等々、実際県北の観光船事業部長を交えて話をしました。その中では、やはり今後の観光客の動態といいますか、今までのような現在やってる109トン、400名というで

かい船じゃないだろうと。今後はやはり小型船といえますか、そういうのがまず適当であろうという意見。また現在の航路だけでなく、湾内の不定期の活用の仕方というのもやっていかないと、様々な観光客のニーズには答えられないだろうというようなご意見を頂戴したところでございます。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） そうすれば市がこの会議を持ったというのは、市が観光船事業を実施をするという前提の会議なのか、その観光船の建造をして事業をやっていくと。こういったことを頭に入れても、そもそもどういいますね、この会議の市が持った前提条件といえますか、どういう意見をいただきたくてこの会議を持ったのかという点についてどうでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。正直申し上げまして、撤退が表明されて以降、民間からの動きといえますか、そういうのは一つもなかったと、残念ながらということがございます。やはり我々その観光団体だとかワークショップなんかやって、まず観光船これなくすわけにはいかないなという認識には我々立っていました。やった場合というか、そういう仮定した場合ということで、やはり市が建造した場合にどういうふうな方向が考えられるのか、どういうことに注意しなきゃならないのかという視点があったのは、正直なところございました。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） そのことについてはわかりました。そこで二つ目の質問です。新造船19トン、2億2,000万の金額が見込まれております。この2億2,000万の言わば根拠といえますか、何がこの2億2,000万の算定根拠になっているのか、これについて詳しくご説明いただきたい。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 様々な大きさの船の部分で、見積りともいえますか、業者見積りをいただいておりますのでその金額でございます。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） そうしますとその見積り中には先ほど観光課長のほうからもお話がありましたが、新しい船には障害者等を含めたバリアフリー、トイレ等を含めてこういったものが今必要になっている。これを含んだ金額だというふうに理解をしてよろしいのでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） まさしくそのとおりでございます、現在の船ですと、浄土ヶ浜の発着場の高さでも十分バリアフリーというか、きつくなく船に乗れますが、19トンなりますと今の岸壁は高いです。正直言います。そうなると船側にも当然バリアフリーといえますか、エレベーターだったりというふうな高いところに着けてそこからというような、バリアフリーの部分の金額も含んだ内容でございます。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） 私は我々の理解とすればはこの金額を超えることは想定をしなくていいと。これについてはどうですか。つまりこの2億2,000万という金額が我々に示されているわけですが、場合によってはこれが超えるということがあり得るのかどうなのか。これについて今市の現状認識はどうでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。船の仕様については既に確定した部分はございません。動きはあると思いま

すけども、この見積りについてはその辺を含めた見積り額なってますんで、この金額の中で収めたいというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） そこで市のほうとすれば公設民営という形で公募したいという今日の提案であります。公募という意味合いについて、つまり従来は浄土ヶ浜観光船については県北の観光船事業部が実施をしてきた。我々とすれば当然そういう経験を持ってきた県北観光船事業部が、ある意味想定をして運営をされていくのかなという思いもあったわけですが、市とすればそうではない。県北観光船事業部がもちろん手を上げるかどうかという問題はありますが、この公募にした意味合いはどのような点からか、というところを少しご説明いただきたい。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 一般的に指定管理というのは一般の公募という部分の流れでやりました。現実問題として、確かにノウハウを持った団体といたしますと、市内だと岩手県北自動車さんの観光船事業部だというふうには認識しておりますが、やはり広く公募をかけ、その指定管理上、一般公募という感覚で示したところでございます。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） 特に深い意味はないと。また現実的に公募したときに今部長がおっしゃったように、県内、県外を含めてということになるかどうかわかりませんが、今のところは県内事業者を対象にした公募あるいは県外もというお考えですか。公募する場合はどうでしょう。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 具体的にはそこまでまだ詰めてない状況でございます。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） まだ何人かおられますので、一応確認の意味でお聞きをいたします。先ほどこの観光船事業を実施していくには、5名の人員が必要だと。操縦者3名、それから事務員2人という話がありました。操縦者については2級免許、これ交代要員含めますよという話がありました。事務員については、先ほど課長の説明ですと、ガイド、それから責任者、売店等々とお話がありましたが、いずれ事務員はそうすると兼務になるのかなというふうな思いもして聞いておりましたが、ここの5人というのは現実問題として、指定管理者が雇用するという形になるのか。それとも、公設という形でそもそも最初から市が雇用する形態を考えているのか。この考え方はどうですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） それは指定管理者が雇用するというふうな認識でございます。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） こういう形になるんだろうというふうに。そうすると当然、指定管理者がこういった人員をしっかりと確保をした上で運航するという形。最後の質問になります。私はやっぱり財源の問題が気になっております。先ほど前田観光課長の話でいくと、地方創生推進交付金にチャレンジをしたいと、こういうことなわけです。いずれ年が開けるとスケジュールでいくと、これは来年の4月、5月、業者を決定をして契約を進めていくということになるわけですから、ある意味この4か月といいますか、3月、4月あたりまでには一定のこの財源の目途をつけておく必要があるんだろうというふうに思うんですね。そういった意味からする

と、この推進交付金については、これは今の中では今年度、来年度これの見通しも含めてどういうお考えでいらっしゃるでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。この地方創生推進交付金でございますけども、来年度に認められる部分として今年度中に申請をしたいというふうに考えてございます。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） そうすると今の予定でいくと交付金の補助決定が決まる時期は6月、7月このぐらいの時期になりますか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 来年3月になります。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） 仮にこの交付金の補助決定が決まらなかったという場合については、まず発注するわけですから、当然交付金が来年3月に決まらなかったという場合については、これにかわる財源を頭に入れておく必要があるんだと。ここについてはどういうお考えでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 起債についてもまだ確定した部分がございますので、当然年度途中で財源補正という形になるのかなというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○議員（竹花邦彦君） 今の答弁の確認です。そうすると仮に国の推進交付金等が3月で残念ながら決まらなかったという場合は、起債で取りあえずこの建造費用等々については事業を進めていくと。こういうことだというふうに受け止めていいわけですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 現在、財政課との協議の中でそのような事態も想定して協議をしております。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） はい。もう既に何点かやりとりをしておりますが、理解はしたつもりなんですけれども、ちょっと確認をまたさせていただきたいと思います。1ページの2億2,000万建造費。これは業者見積りという説明いただきました。この見積りをとる業者が県内でいえば3者あるという、釜石2者、山田1者。この3者の中に含まれる業者でしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 含まれてございます。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） なかなか悩ましいところなんですけれども、宮古市、行政だけではないと思うんですけれども、その事業費の頭出しをする際にその関係事業者に見積りをとって頭出しをするっていうケースが予算を立てるときに多いんですけれども、これを無償でやってるんですね。これがやはり問題ではないかというのは以前にも指摘したことがあるんですけれども、やはり本当に公正な入札、公募を含めてそういった選定するプロポーザルであれ何であれやる場合に無償で見積書っていうか事業費を概算出すっていうのはね、いかがかなっていうのが今までのやりとりあったんですけども、そういう意識は全然ないんですか。これいい悪いは別

ですけど、実際のところどうかわかりませんが、本当にこの見積りを出した事業者っていうのは簡単に積算できるものかどうかという私もわかりませんが、それなりに時間とか人員なり、そういったものをかけないとこれ出来ない見積りですよ。それを無償でやるということは、問題がないという理解でしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 正直そこまで考えてございませんでした。田野畑と協議をしている中で、ここで建造したということで、その業者さんに見積りをお願いしたというだけで、無償でとか有償でという部分は考えてございませんでした。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） これはね、私はやっぱりどういういきさつかっていうのは今説明聞いたんですけど、大体こういういきさつ同じなんですよ。当然、造船業に関わってない方、事業者に船の積算なんか出来ませんので、当然、限りなく特化して狭い範囲で見積りをお願いするという形になると思うんですね。それが無償っていうのはね、私はやっぱりプロポーザルであっても、かつてはデザインビルド、デザインから入ったりしてるんですけど、一部有償で提案してもらうというのに一時期変わった経緯があるんですよ。無償ではなくて。今回もやっぱりこういう限りなく対応できる造船業界っていうのは、どこまで広さがあるかわかりませんが、全国公募もね、まだどうするかも決まっていな。市内、市外も決まっていな。そういった段階でこの3者対象、そして3者の中の1者にだけをお願いする。無償でっていうのは私問題があると思いますよ。これは早速改善すべきですね。ですから、もう少し広く有償で見積り徴収をして、そしてそれをどう比較するか、頭出しにするかっていうのを組まないと駄目なんじゃないですか。どうでしょう。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） ご意見ありがとうございます。契約管財課とちょっと私情報を共有しながら検討させていただきます。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） でないと事業費そのものの正当性ですよ、客観的な。だから先ほど竹花委員が言いましたけれども本当に増がないのか。ということですよ。過去にも宮古市は出崎開発で痛い目に合ってるんですよ。またその後に魚市場の建造事業についても痛い目に合ってるんですから、だからやっぱりここは改めて今回チェックして、そしてどう対応するかということは必要だなと。この妥当性ですね。これを根拠を持っていただきたい。持つべきだということを指摘したいと思います。それからもう1点は先ほど竹花委員もちょっと触れたんですけど、この5人の想定っていうことですね。指定管理に出す。そうすると根拠はあくまでもランニングコストの4,490万ですか。これを基準にして今まで指定管理の場合ですと、収入を指定管理者にどう、収入をどうするのか、ということですね。その説明がなかったと思うんですが、そこはどう理解するんですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 民間の運営主体については、指定管理ということを想定してございます。先ほど言ったとおり、維持管理については市で負担をすることを前提として考えてございますが、条件次第では、経営が安定し利益が出れば、例えば起債の償還分を返してもらうとか、還元をしてもらうとか、そういう状況によってはその辺も考えていきたいというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君）　そこはやっぱりはっきりこう明確にしておかないと、前段ですよ。当初から明確にしておかないといけないのではないかな。要するに事業者の経営努力、営業努力といいますか。それによって生まれる部分、これをみんな取り上げるということになると、一部かどうか別にしても、そこはやはり今努力をして出た分はどうするかとかね、そういった部分はやっぱり前段にしておかなきゃならない。また最低限度必要な運営経費、運航経費っていうものはしっかり押さえるべきだし、そして指定管理料どうするのか。ここ今の段階でまだわからないということだろうと思うんですけども、ここはやっぱりもう少し早く検討して、そしてどうするかっていうのを示す必要があるというふうに思いますがどうでしょうか。

○議長（古舘章秀君）　伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君）　はい。確かにそのとおりだと思います。指定管理の条件の中で当然利用料金制というか、儲かった部分をどうするかという部分を明らかにしないと、頑張っただけでも市に持ってかれちゃってなると、モチベーションが下がるだろうと。やはりバランスといいますか、そこら辺はちゃんと示しながらやる必要があるというふうに思ってます。

○議長（古舘章秀君）　松本尚美君。

○議員（松本尚美君）　インセンティブっていう部分でね、表現もありますから、そこももう少し明確に分かるように。ただこれがやはり事業全体の建造することもさることながら、運航するっていうこれはトータルスキームですから、ここだけはっきりしてるっていうわけにはいかないだろうというふうに思いますから、予算の計上が審査がいつになるかというのはちょっとわかりませんが、やっぱその前にそこをしっかりと押さえる必要があるんだなという、これは最後意見になるかもしれませんが。それからちょっと戻りますけれども、この双胴船を選択したっていうことは、メリット、デメリット、そんな中で高額だけれども双胴船を採用することだろうというふうに思います。以前にも私が6年ぐらい前でしょいかね。今の県北さんが運航している観光船が老朽化してこれ大変ですよと。何らかの手だてをやっぱりしっかりすべきだということのやりとりをさせていただきました。その際に今までの県北バスさんが運航してる、もしくは当初宮古市が建造して直営でやってた時代。これは東京の江戸川造船でしょいか。正確にちょっと名称を言えませんが、東京の業者なんですね。この東京の業者がこの三陸沿岸のこの海域っていいですか、そこをしっかりと精通してそして今の観光船の設計に至ってるというふうに私も聞いてましたし、当時6年前に直接の会社に電話して、そしてどうでしょうかということをやとりして、大まかな金額もそのとき聞いたんですけども、やはりそういったデータをしっかり持っていないといけないのではないかな。釜石が湾口防を建設する際に双胴船を採用したんですね。湾域が静穏海域ということで選定したんですけども、今はもうほとんど駄目ですね。津波でも被災されたようですし、当時運航してる時も問題がある。要するには湾外に出れない。湾外に耐えれないっていうのも聞いてました。ですからそこをもう少し双胴船にするかどうかっていうのを検討といいますか、チェックする必要があるんじゃないのかな。今県北バスさんも専門家会議の中に入っていてやりとりをしているということです。県北バスさんの今の観光船の携わってる方々船長さん含めて方々の意見も入ってるのかなというふうに思いますけれども、今一度もう1回チェックしていただきたい。チェックする必要があるんじゃないかなというふうに思いますがどうでしょうか。

○議長（古舘章秀君）　伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君）　我々今持ってるその情報の中でこのような提案しましたが、確かにもう少し意見聴取して確定させたいというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） 調べればすぐわかりますからその造船会社ですね。ですから、その造船会社の担当者が当時電話で言ったのは、当社は間違いなく三陸沿岸の特に宮古の観光船を造った会社ですから、しっかりと把握してます。間違いなく当社がそのデータに基づいて船体の設計をしてます、というのははっきり言ってますんで確認をいただきたいと思います。それからもう1点なんですが、この財源の部分、竹花委員ともやりとりがありましたし、その他もありましたけれども、今時点でなかなかこの財源が決まってないのは本当に悩ましいですね。起債すれば何でもできるっていうこの発想ではやっぱりいけないのではないかな。以前にも申し上げたんですけども、今回クラウドファンディング型のふるさと納税ということですけども、私は投資っていう部分ですね。ファンディングそのもの自体はこれは投資なんです。やはりそういった船にどう思い入れを持つかっていうことになればやっぱり投資していただく方々をどう確保するか、ということが私はやっぱり大事な部分だと思うんです。寄附だけではなくて。要するに事業として成り立つ。そして運営計画なり収支計画なりそういった将来性含めて投資してもいいですよ。そういうやっぱり環境をつくっていく必要があるんじゃないかな。今回抜けてるんですよ。だからそこが非常にちょっとどう何で検討しないのかな、あの時は検討してやるという答弁もいただいてるんですけども、6年前やりとりしたんですよ。だから全然検討がされてないというのは悩ましいんですけども、なぜ検討してないんですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 今回の資料にすいません、確かに投資の部分というのは記載されていません。我々の持つてる感覚としてはやはり投資の感覚というのにも必要だというふうに認識しておりますので、その部分も考えて財源というふうにしていきたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） 指定管理ですから、既存の今ある事業活動してる方々中心にやるのかもしれませんが、私は場合によってはSPC、目的会社というものも設立してそして運営していく。そういった部分をそういった事業体に投資するという部分もあっていいのではないかなというのは思ってます。宮古市はSPC対応でやっていたのは浄化槽市営、市設置型の浄化槽事業だけなんですね。それから全然進んでないんですね。だから、このSPC含めてそういったものを運営主体、これをどうするかっていうのも私は大きなポイントだと思ってます。どうでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 特別目的会社ということになりますか、SPCというのは。その部分の検討は今現在しておりませんが、今後ちょっと検討させていただきたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） これも大事なポイントだと思うんです。やはり極端に言えば指定管理を受ける。要はインセンティブが働かないというのももちろん駄目なんですけれども、やっぱりこの運営体、経営体としてしっかり地に足つけて、そして利益を求めていく。プラスを求めていくっていうのがどうしても第三セクターにないわけですね。残念ながら。ただし一時期この株式会社にすることによってやはり収支を、収益を求める組織でやるべきだっていうのもあって株式会社になってますけども、今かつてこの第三セクターというのはなかなか難しいようです。それはなぜかというバックに行政がいるから。今の三鉄さん、三鉄さんとは言ってはいけませんけども、赤字が出ても赤字にはならない。そういう体質がやはり今後継続するというのはやっぱり

避けなければならないということですから、用意ドンのスタートでもってそういった運営主体を、事業者をも
って対応していくっていうのは私はポイントだと思います。ですから、やっぱり投資という部分が必要、非常
にポイントになるというふうに思います。これは市民も含めて、ぜひこれは早急に詰めるべきだと思います。
どうでしょう。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 運営主体の部分については今の部分も考慮に入れながら検討させていただきます。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○議員（田中尚君） まずは、今日の全協の形での説明会ということに関しては、産業建設常任委員長さんのご
決断に敬意を表したいと思います。同時に今日説明いただいておりますこの資料、非常に詳細な資料いただい
てるなという思いで説明をいただいております。そういった意味では本当に大変な課題に、一生懸命対応して
きたなということについては敬意を表したいと思いますので、まずは本当にお疲れさまでございました。その
上で、今日私たちに説明いただいているポイントは、市が遊覧船を言わば建造すると、公設民営方式でやってい
くと。宮古の浄土ヶ浜にあるいはその国立公園に必要な貴重な資源だと。非常に悩ましい思いがあるけれども、
こういう部分で決断したいという点について、そういう方向については了承したいというふうに私も今説明を
いただきまして考えているところであります。なぜかといいますと、さっき竹花議員も指摘した部分なんです
が、2億2,000万で船が持てる。なおかつうまくいったら2分の1は補助金が期待できる。もう一つは今ふるさ
と納税という部分で、田老の震災遺構にも基金の財源にしておりますけれども、これうまくいったらね、もし
かしたら2億円集まるかもしれない。また集めるようにすべきだという思いもありますから、そういった意味
からすると財政的なリスクも取組によっては軽減出来て、船が持てて新しいやっぱり経営戦略が組立てが可能
だというふうに判断をして私は説明を受け止めております。それで確認ですが、現在の陸中丸は、あれは双胴
船、単胴船どっちです。説明ありましたっけか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 単胴船になります。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○議員（田中尚君） それでちょっと資料の部分で確認も含めてになりますけれども、この単胴船と双胴船との
比較の部分でメリットデメリットございました。ちょっと私が気になったのはこの単胴船、これは60名定員、
それから双胴船80名定員ということで資料提示いただいているんですが、少なくとも単胴船、双胴船どちらが
いいのかということに関しては、やっぱり同じ定員で比較しないとね。正確な判断が出来ないのかなと思って
おります。あそこはあえて60、80というこの船の規模が違った、船の建造に当たっての方針を採択にするに当
たってですよ。人数の違いはさほど気にしないで部分ですか。ちょっと確認です。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 4ページの比較表での定員の違いっていうのは、同じ19トンの大きさの船で
ということで、双胴船というのはスペースが広くとれるから、単胴船よりこの場合は20名ですか、定員が多い
という。ですから違いじゃなくて同じ大きさで定員が船の形によって違いますよという資料でございます。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○議員（田中尚君） よくわかりました。建造する船のトン数で比較してこうなるということでもあります。そこ

で次に私が確認したいのは、今回採用しております双胴船。これのメリット、走行中の揺れが小さい。デメリット、ピッチングが大きい。これちょっと私的にはちょっと理解出来ないんですよ。ピッチングもこれ揺れでしょう。だからね、一方ではメリットとして双胴船揺れが少ない。しかしデメリットでピッチングが大きい。ピッチングとは何ぞや。船首の部分と船尾の部分の上下動の揺れが大きいということですから、ちょっとこれは、資料としては不適切な説明項目かな、矛盾してるなと思って私は受け止めているんですが、その辺はどのように理解したらよろしいのか説明をいただきます。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 単胴船に比べて揺れについては同じようなことだと思いますけども、単胴船に比べてピッチングが大きいという比への比較になります。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○議員（田中尚君） そういった意味ではあくまでも単胴船との比較での説明だということですので、船は大きくなればそれはもう揺れが双胴船であれ単胴船であれ関係なくなってくるんで、そういった部分で私は理解したいと思います。そこでもう一つ、私があえて発言をしていい意味で当局の皆さんの取組をアシストしたいなと思ってるのは、この寄附の関係なんですよ。今非常に自公政権の特にアベノミクスの決断で、株価が以前の民主党政権のときに比べたらもう来年は3万円になるんじゃないかというふうなもうバブル現象で非常に株をお持ちの方は、もうどんどんどんどん富が集まって困るような状態になってるということですが、それに関連して株主の場合にはプレミアムがつくんですね。株主優待です。聞くところによりますと、企業によってはこれはもう業績がなかなか期待出来ない。今はマネーバブルの時代ですから。そういうことで株主優待を見直している企業が増えていると聞いておりますが、今回、建造船を造るに当たってですよ。私はもうしっかりこのPRということが大事な。具体的に言いますと、例えば1年間なり2年間はいつでも、遊覧船は無料で乗れますよ。だから建造に寄附してねということで、寄附額の規模を設定してですね、そうするとね、やっぱり今お金を持ってる方たくさんいますから、人数少ないんですけどいっぱいいるんですよ。持ってる金額は。そういう方にしたら2億2,000万なんかも鼻くそみないなものですよ、私に言わせればね。表現よくないですけども。そこをいい意味で宮古を応援しよう。宮古に行ったら無料で乗れるというプレミアムで私は2億2,000万どころか、3億円を集めて運営基金もつくと。なおかつそこに補助金が採択されたら、万々歳。そういう方向で私はやるべきだということをあえて意見を申し上げたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 今、全国の部分の話だと、まず1点はいろいろな意見をいただいた中で、まず市民に愛される船であってほしいという意見も相当数ございました。そうするとやはり市民からの寄附の部分に対してはやはりそれなりの何か割引だとかというのが、あっていいんだろうなというのは頭の中で考えてますし、今そのバブルという部分のお金を集める手段としてはそういうご意見アイデアとして頂戴したいというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○議員（田中尚君） これから地方都市にとって地方再生の一つの要素がインバウンド効果をどう取り込むかだと。コロナがなければやっぱり海外の富裕の方々が、どんどんやっぱり移動するという局面だったんですが、これがコロナによって今ストップしてますので、ただこれもいずれね、ずっとじゃないわけでありますから、そういったことも見据えて考えると、今の部長のほうからは市民の皆さんに愛される船、出資することによ

って、そういうことが保障されるようにね、対応したいということで私はそれはそれと支持したい。なおかつ、その方々が出資した場合には半額で利用する。全国から来る方は旅費もかかっていますから、宮古に来て宮古のものを買ってお金を落としてほしいんですよ。だから観光船は無料でいいんですよ。そういった意味で二つの言わば、プレミアムを用意してこの際3億、5億集めるという気持ちで私はやるべきだということを申し上げて意見いたします。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○議員（落合久三君） たぶらないように。いろんな今日の提出になった資料、分析本当にご苦労さんです。1ページの私も最初に新造船の金額2億2,000万、これは先ほどの松本議員の質問の中で先ほど述べた釜石2者、山田1者、造船場ここも入っているっていう、2億2,000万の試算の根拠は何かっていうやりとりでそういう答弁があったんですが、今持っている109トンの陸中丸を造ったのは、江戸川造船ではなく墨田造船だと思ってるんですが、墨田造船からも聞くべきだったんでないかなっていうふうな素朴なあれ持つんですが、そこは県内の、三つだけなのかどうかちょっとはつきりしませんが、そこからも徴取したんでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 徴取しておりません。先ほど申した1者だけの部分でございますので、その一社見積りでいいのかという部分に対してはやはり広くという部分で先ほどやってまいりたいというふうに答弁しました。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○議員（落合久三君） 部長の先ほどの答弁は聞いてたんで、確認の意味で聞きましたので、そこも含めて今後検討するということのようです。それから2ページの（1）ランニングコスト、この表の下の米印の欠航率。浄土ヶ浜コースの場合は8.4%をこの間欠航している。北山崎コースは19.5%。少し外洋に出るせいもあるのかなというふうに思うんですが、北山崎コースっていうのは、ここをもう10年以上実際は運航していないんじゃないですか。陸中丸は。陸中丸の話ね。その確認ですが、実際にはかなりの期間やっていないコースのやつもここに加えて欠航率を示していますので。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） この北山崎については、現在の浄土ヶ浜遊覧船じゃなくて、田野畑の遊覧船の欠航率になります。19トンの欠航率になります。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○議員（落合久三君） そうだろうなと思ったんですが、要するにこっちから浄土ヶ浜のほうから北山崎に行くっていうことではなくて、田野畑が持っている三陸丸のコースの中でのこれは欠航率なわけですから、というそこを確認したかっただけです。少し言えば余り意味がないんじゃないかなあというふうにこっちから出ている船の欠航率であればいいんですがという意味でした。でもあの説明でよしとします。それから同じ2ページのこの必要人員19トンは資格者3人、構想ではその他事務員2人っていう合計5人を想定してるんですが、この問題は資格者3人。一般質問でもちょっと聞いたんですが、この3人の内訳は船長何人。機関長は多分数に入っていないんでないかなと思うんですが、あとは通信長というのにも必要になるんですが、この3人の中身、交代要員もあるっていうんで、船長さんは1人じゃないべな。2人なのか、3人なのかその辺も確認しておきたいと思いますが。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 船員3人そして事務員2人については最大で見てございます。船員については船長1人、副船長2人と副船長が交代要員を含むというふうに想定をしております。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○議員（落合久三君） いいです。それから4ページ、この双胴船と単胴船のメリットデメリットのやつあるんですが、確認のために一応聞いておきますが、先ほど冒頭の説明のときに釜石2者、山田1者造船場があるという話ですが、当然この3者とも双胴船の建築の実績はあるところだと思うんですが、そういうふうな理解でいいですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 3者については訪問をして実績等確認しております。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○議員（落合久三君） 最後ですが、建造に関わる財源どれほど効果があるか、また、見込みがあるかどうか分かりませんが、震災後に吉永小百合さんが来ましたよね。前の佐々木船長とお話したときもポスター、今でも何か所かに結構貼ってあるんですが、非常に大きなインパクトを与えたとは思って聞いてました。ぜひその寄附を呼びかける呼びかけ人の1人に現実に宮古に来てああやって、本当になくしては駄目ですよって言ってきた人なわけですから、ちゃんとしかるべき人も行って、吉永小百合さんにも寄附の呼びかけ人の、どういう形がいいのかっていうのはちょっとあれですが、そういうことも含めて、先ほど田中議員も言ったんですが、私もこの2億と言わず、そういうこともちゃんと手順を踏んで思い切ってやっぱり広く寄附を呼びかけるっていうことは当然やるべきでないか、吉永小百合さんが、うん、ていうかどうか、それはわからないです、わからないですけども、あのポスターをつくる時の話は船長から聞いていましたったので、やっぱり何となく来たっていうんでもないんですよ。やっぱり被災地でこれだけ歴史のあるところを何とか自分もポスターの1人に写ることを通して、役立つんであればっていうね、やっぱり熱い思いを持ってきたと思うんでね。ぜひここは苗字が違えば小百合さんは近くにも居ますけども、ぜひそういうことも検討したらどうかなと思うんですがどうでしょう。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 我々やはり財源の確保が非常に重要な部分というふうに認識しております。今のアイデア、なんかすごくわくわくしてくるような話と私も感じました。チャレンジしてみたいと思います。

○議長（古舘章秀君） ほかにございませんか。橋本久夫君。

○議員（橋本久夫君） 一般質問等でもね、このことについてお聞きしたことで、12月中には何らかの形を示すということでございましたので、このような基本方針が示されたことだと理解をいたしました。先ほど部長も答弁していましたように市民に愛される観光船を造るということは全く同感だと思います。乗船したらポイントもつけるぐらいのいろんな事業の仕方ができるのかなと思って聞いておりました。それでお聞きしたいんですが、1ページ、新造船の概要についてのところで確認ですが、一応19トンの操縦資格は小型船舶でできるんですけども、この建造する意味でも、小型船舶の資格の中で全長も規定があるはず。ですからこれ19トンだけだとちょっとわかりにくいんで、2億2,000万で小型船舶の船をつくる場合は確か24メートルまでが最大値だと思ってたんですが、これはどのようなこう見積り、例えばこの全長が20メートルなのか15メートル、それとも最大値の23メートル、24メートルで見るのか。この辺のちょっとこう考え方、新造船のトン数は分かるんですが、全長等も考え方を教えてください。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はい。最長18メートルになってございます。

○議長（古舘章秀君） 橋本久夫君。

○議員（橋本久夫君） 18メートルと何かちょっと意外と短くなっているイメージで、それで80人乗りになるわけですね。なるほど。これはそうすると例えば22メートルとか23メートルとかって全長も指定すれば、もちろん建造費はもう見積りは変わるということですね。これ18メートルの19トンで2億2,000万の見積りが出たという考え方で理解してよろしいですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） はいそのとおりでございます。

○議長（古舘章秀君） 橋本久夫君。

○議員（橋本久夫君） 全長ももうちょっとあってもいいのかなってこういうイメージはしましたけども、それはそれで理解いたしました。いずれそういう考え方もちょっと含めて何メートルか、2、3種類含めて欲しかったかなと思います。それでこのタイプなんですけども、双胴船この平水区域は先ほど閉伊崎から姉ヶ崎を結ぶ線って言ったんですが、結局その航路以外からは沿岸域区域には出れない仕組みになりますか。ここの許可の問題だと。特別に出れることもあるとは思いますが、これはもうこの平水の区域の中だけでしか航路確定出来ないものなのかということをお教えてください。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 今現在考えてるのは浄土ヶ浜遊覧船の周遊コースをベースにこの平水区域のみの就航コースを考えてございます。

○議長（古舘章秀君） 橋本久夫君。

○議員（橋本久夫君） 理解いたしました。いずれもうこれがね、どんな形か安定してくればいろいろルートも考えられるのかなとは思ってございましたけども、ピッチングの問題もね、単胴船でも双胴船でもほとんどあのコースはびっちりになっちゃうと、どれもハンディは同じだと思うんで、その辺のところはむしろ大丈夫かな。むしろローリングのほうが双胴船が強いんで、あのコースであればうまく航路は確保できるのかなと思ってました。将来的には閉伊崎を交わし、鮎ヶ崎とかそっちのほうまで見据えた観光ルートも設定できれば、平水区域から外れると思うんですが、その将来的な考え方も含めて、いろいろ検討はしていただければと思ってます。そこで先ほどの4ページの運営主体のことが皆さんがいろいろ質問されてましたのである程度理解はしたつもりですが、まだまだその目的会社の設立とかまだ検討段階ではないっていうなお話だったんですが、公募の前提としてはやはりこれは海事関係なのか、もう県北さんは当然加わらないはないと思うんですが、新たな海事関係なのか、そのイメージしてる運営母体ってのは何かお持ちですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 私の今頭の中にあるイメージというのはまず県北さんが当然でございます。それ以外でNPO団体さんとかっていうのが手を挙げてくれればいいかなあというのがありますが、現実問題、非常に厳しいのがあるかなというのも正直あります。先ほど特別目的会社もございますし、仮に誰も手を挙げなかったといった場合にこれはやはり直営でやってみるっていう覚悟も持ちながらやっております。

○議長（古舘章秀君） 橋本久夫君。

○議員（橋本久夫君） いずれ運営母体は今後の課題だということなんで、その辺は今後も詰めていただきたい

と思います。それで新しく出来た船のホームポートっていうんですかね、管理基地になるのは今までどおり浄土ヶ浜のあそここの場所になるのか。それともそのさつき出崎埠頭が平成4年から運用開始すればそこが拠点になるみたいなお話もしてたんですが、いずれどちらかがメイン基地じゃないけども、係留場所になるかと思うんですが、その辺はそれは指定管理者が決まってからになるのか。それともある程度もうここを拠点化していくんだっていう、そういう想定もありますでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） ホームポートの部分については、現在ここだというのはございません。

○議長（古舘章秀君） 橋本久夫君。

○議員（橋本久夫君） これも今後の課題検討っていうことですね。それから、ちなみにこの平成4年に開始するわけですが、3年度は全く運航が出来ない状況の中で、この辺の1年の空白期間を何か代替みたいな案があるのか。小型船舶を使って何かちょっとした社会実験的なものもやるのか、その辺の考え方はどうでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） まず空白の1年になります。令和3年度は。県北自動車に相談をしました。ただ、ドックに1,300万かかる。船員従業員の雇用の関係で難しいということで県北さんからは断られております。これからになりますけども、小型船舶、遊漁船を活用した体験型の観光を検討していきたいというふうに思いますし、今ございます青の洞窟、シーカヤック、鮎ヶ崎灯台のクルージングなどについても、PRと連携をしながら何とかこの1年を埋めていきたいというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 橋本久夫君。

○議員（橋本久夫君） 了解いたしました。いずれ1年の空白が空く中で、やっぱりこうつないでいくのも必要かなと思います。岩手県小型船舶安全協会というのもあるんで、そこらにも相談をかけてみれば、いろんなアイデアっていうか可能性が見出せるのかもしれないので、その辺のいろいろやっぱり関係者といろんな協議をしていただきたいなと思っております。以上です。

○議長（古舘章秀君） ほかにございませんか。木村誠君。

○議員（木村誠君） 2ページのランニングコストの支出の部、これ事務所費って120万載ってますけどもこれは光熱費という考えでよろしいんですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 光熱費でございます。

○議長（古舘章秀君） 木村誠君。

○議員（木村誠君） わかりました。光熱費ということで、はい。今現在、第1駐車場にチケット売り場、あれは県北バスさんが建てた建物で、船が来年1月に終わっても3月ぐらいまでは使ってるよってことで。そのあとは使わなくなるということで言われておりますが、令和4年度船が復活した後に、チケット売り場そういった窓口が必要になってくると思うんですけれども、第一駐車場の建物、割と立派な建物ですけども、あれを例えば市のほうで買い取って次の事業者にとこが運営するかわかんないですけども貸し付けるというのもありなのかなと思うんですけれどもそこら辺のお考えを教えてください。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 今ございます浄土ヶ浜第1駐車場にあるチケット売場ですけども、県北自動車の所

有になります。当初県北自動車では解体をするということで話を聞いてございます。それ以降の協議は全くしてございません。

○議長（古舘章秀君） 木村誠君。

○議員（木村誠君） そうしますと令和4年度、船が再開したときにチケット売場とかそういった窓口の建物は次の運営する事業者が建てるっていう考え方でよろしいんですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 発着場については、出崎埠頭になるのか、浄土ヶ浜になるのかまだはっきりした部分はございませんけども、出崎であればなおにお願いしたいということもありますし、浄土ヶ浜であればビジターセンターということも考えられるというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 木村誠君。

○議員（木村誠君） わかりました。以上です。

○議長（古舘章秀君） 加藤俊郎君。

○議員（加藤俊郎君） はい。ありがとうございます。大体いろんな角度から質問は出まして、大体理解をいたしました。私からは、2点ぐらい提案も含めてお話をさせていただきたいと思います。まず第1点目が全然話が出てこなかったんですが、この事業で1番大事な大切っていうかな、重要に考えなければならないことは、安全性の確保だと思っております。それで安全性についての配慮はこういうふうにしてるっていうことがなかったんですが、その点についてお伺いしたいと思います。1ページの専門会議の中で、船舶に詳しい方っていう表現でそういう方が入ってますよってお話でした。それで橋本議員も指摘しましたが、海上保安庁関係の方あるいは県の取締り機関、宮古市にあるんですが、そういった方々の意見は聞かなかったのかどうかというのはですね、宮古市は本市最東端の鮎ヶ崎を控えておりまして、それで結構風も吹くし波も荒れる時があるというふうに思っております。田野畑の例、欠航率っていうことですが、松島はあのおり内湾なために、双胴線で船艇が平なやつでいいんだろうなと思うんですが、ところがこの辺の三陸沿岸とは全然条件が違うというのは承知のことと思ってる質問ですが、現在の観光船も底が平らなやつなんですけど、結構あのおり揺れる。揺れるんだけど、トン数が100トン以上だからあの程度で済んでるんですよ。それが今度19トンになった場合に平底の平場のやつでそれで大丈夫なのかどうか。安全性の面でピッチングのローリングについては、4ページにメリットデメリットって書いてあるんですが、私このデメリットのピッチングが大きい、連結部にスラミングが生じる、あるいはまた底が平なもんですから、風に弱いっていう欠点が多分あるんだろうなと思うんですが、そういったことを考えれば双胴船のほうがいいのかどうか。安全性っていう観点から、もうちょっとしっかり議論すべきじゃないのかなと思って聞いておりましたがいかがですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 安全性そして宮古湾そして日出島までのコースという部分で、我々造船サイドの人と随时意見交換といいますか、こういう場合はこうだというので、我々はやはりバリアフリー対策そして定員の確保という部分で、宮古湾のこの気象条件であれば、双胴船で大丈夫だというふうな判断はされております。

○議長（古舘章秀君） 加藤俊郎君。

○議員（加藤俊郎君） 本当に大丈夫なのかな。田野畑で出しているこの欠航率を参考にしたっていうことなんですけど、田野畑で持ってる船は双胴船ではない。本当に時化にも強いっていう感じの船ですから、だから双胴

船の、しかも19トン確かに経済効率考えればこのほうがいいんですが、安全性の観点から見るとどうなんだろうなと思って私はちょっと危惧しての話になっております。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 田野畑の遊覧船については、就航コースは平水区域じゃなくて限定沿海という区域になるみたいです。それでうちの今回の平水区域、先ほど言ったとおり閉伊崎と姉ヶ崎の結ぶ線ついでの内側については、平水区域ということで区域が全く違います。

○議長（古舘章秀君） 時間が過ぎましたが、あと何人ぐらい質問者あるんでしょうか。場合によっては昼食。松本議員はまだですか。何分ぐらいかかりますか。場合によっては昼食のため暫時休憩しますけども。続きます。加藤議員。

○議員（加藤俊郎君） それで、2級船舶操縦士、小型船舶操縦免許2級、条件がありますよね。海域はこれくらい。ホームポート、浄土ヶ浜になるのか出崎埠頭が整備された後にこっちに来るのかっていうのは、まだ検討段階だということでした。それともう一つ、どういうふうな運航するするのかっていうことについては、今のところ先ほど前田課長がお話ししたとおりの海域なんだけども、今後いろんなことを考えていきたいというお話もありました。そういったことを考えれば、2級船舶よりも1級のほう条件に加えたほうがよろしいのかなと思うんですが、1級だと例えば極端な例ですが、アメリカまで行ってこれる。2級だと何カイリ、その内しか走れないっていう制限があるはずなんなんですが、いろんなことを想定すれば2級船舶ではなくて1級のほうにしたほうがよろしいのかなと思うんです。しかも2級持つてる方、それほど難しい試験ではなくて1級取れると思うんです。だからこれ1級のほうに限定したほうがよろしいのかなと思いますがいかがですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 先ほどの説明は条件として2級ということで説明しましたが、できれば加藤議員言うとおりの1級の資格者をお願いしたいというふうに考えてございます。

○議長（古舘章秀君） 加藤議員。

○議員（加藤俊郎君） 最後ですが、時間が限られているため最後ですが、私もお隣の松本議員も提案しておりましたが、まさにこの事業はSPCでやるに本当に適当な事業ではないのかなと思って前から見てたんですが、残念ながらこういう形で進めたいということでした。それで、指定管理で決まらない場合には市の直営でっていうお話も先ほど部長からありましたが、ぜひこれはSPCももう一度検討してみる価値があるのかなと思います。そうするといろんな事業展開が考えられるっていうことからこの指定管理でやるっていうことになる、それしか出来ないっていう形になります。SPCでやると、いろんな形でインセンティブも働いていろんな展開が会社経営ですからできると思うんですけども、もう一度その辺、再考をお願いしたいんですがいかがでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 先ほどもSPCについても検討したいというふうに答弁いたしましたし、指定管理の場合でも当然それしか出来ないっていうわけじゃございません。当然自主事業としてこういうのもという提案も指定管理にも道はありますので、それはそれでご理解願いたいというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。簡潔に。

○議員（松本尚美君） 先ほど橋本委員からもありましたけれども、またその前にもあったでしょうか。発着所をどうするか。令和4年から出崎からっていう話で、これは以前にもやりとりがあった部分なんですけれども、

出崎からだけの発着ですと、浄土ヶ浜園地にですね。特に奥のほうですか。レストハウス方面、そこに人が行かない可能性があるということもあったんで、だからこれトータル的に発着をどうするかというルートにどうするかということもやっぱり駐車場が出崎に車を置きちゃうとやっぱり行かない。そのまま通過しちゃうという危惧があるということがあったんでその検討をどうなっていますか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長

○産業振興部長（伊藤重行君） すいません。説明が足りませんでした。当然、場所とすれば、出崎もあるし、浄土ヶ浜の現在の発着場も使います。ですから、出崎から行って浄土ヶ浜の現在の発着場にも着いてというような、そしてそっからのコースというふうな。ですから出崎からそのまま遊覧船ではなくて、必ず現在の浄土ヶ浜も使うという部分で考えております。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○議員（松本尚美君） 分散するっていう可能性もあるわけですね、今のとおり。そうすると分散するっていうことはそれだけレストハウス方面に行く人が減るということになる可能性があるということですよ。要は駐車場を出崎から乗る人は遊覧して、そしてその駐車場に戻ってくるわけですよ。そうするとそのまま移動しちゃうということですね。ですから今の1点とは違うわけですよ、環境が。だからそこをやっぱり検討しなきゃなんないんじゃないですかって話。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） すいません。理解しました。確かにそのまま出崎に帰ってくると奥浄土ヶ浜のほうに行かないという部分ですね。人の流れの部分についてちゃんと精査したいと思います。

○議長（古舘章秀君） ほかになければ質問をこれで終わります。説明員は退席してください。

〔説明員退出〕

○議長（古舘章秀君） 予定していた説明を全て終了いたしました。その他に移ります。皆さんから何かございますか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（古舘章秀君） ないようですので、これをもって議員全員協議会を閉会します。お疲れさまでした。

午後0時10分 閉会

○

宮古市議会議長 古 舘 章 秀